

《教育長メッセージ 第37号》

『あめふりばなこ』

ホタルブクロのことを、私の田舎では、「あめふりばなこ」と呼んでいます。ちょうど梅雨の時期に咲くことから、そう呼ばれるのでしょう。



子どもの頃、そこらじゅうの草むらや土手に咲いていたような気がします。花の色は、白のものや赤紫色があったものがあります。筒状の花で、一本の茎にいくつもの花が咲きます。しとしと雨が似合う、清楚で可憐な花です。

今でこそ、そう思うのですが、子どもの頃の私にとっては、「あめふりばなこ」の花は食べるものでした。

「あめふりばなこ」の花を見つけると、次々とそれを摘んで、台所の梅干しを漬けている瓶に入れておきます。

そして、一日ぐらい漬けておいて、食べるのです。梅と紫蘇の香りが浸み込んで酸っぱいけれど美味しくなるのです。花卉がやわらかいので美味しいのです。

ただ、遊びに夢中になって、漬けてあることをよく忘れました。すると、兄に食べられてしまうことがあり、そのことで、よく兄弟げんかをしました。今のようなお菓子が沢山ある時代ではなく、本当に、季節の楽しみでしたから。

さて、数年前、そんな兄が亡くなって知ったことですが。三年前に、震災と兄の事故以来、我が家でいっしょに暮らすようになった母宛に、兄の奥さんから、ホタルブクロが届きました。

「ふみやす、あめふりばなこおぐらいできた。あんちゃんさそねえでけるだちゃ。」

母はそう言って、花の包みを見せてくれました。

兄は、「あめふりばなこ」の花が好きで、生前、もしお墓に入るようなことがあったら供えてほしいと言っていたそうです。

その時期に、田舎に帰ることもかなわず、我が家に植えました。それ以来、昨年、今年と我が家で花を咲かせています。

私は、「あめふりばなこ」を見ると、そんなことを思い出すのです。

そして、実は、相鉄線のかしわ台駅の線路脇にも、「あめふりばなこ」の花が、毎年、同じ所に揺れるのです。

次回は、「春の運動会から」ということで、先月に行われた市内小学校の運動会についてお話してみたいと思います。